

## 底魚資源調査（夏季）を実施しました

水産試験場では、本県沖の主要な底魚資源の動向を把握するため、平成15年から調査船いばらき丸（179t）により年2回（夏季、冬季）の着底トロール調査（オッタートロール）を実施しています。本調査では、本県沖の水深75～450mまでの海域、合計32点において、15～30分間（速力2.5ノット）網を曳き、得られたデータから底魚類の現存量を推定しています。今回は平成30年7～9月に実施した夏季調査の結果について報告します。

### 1. 主要な底魚類の推定現存量の推移

表1に平成22年以降の主要魚種の推定現存量の推移を示しました。平成26年から5年間の傾向から、主要な底魚類のうちムシガレイ、アオメエソ（メヒカリ）、キチジ、ユメカサゴ（ノドグロ）、トラザメ（ネコザメ）の5種が増加傾向、マダラ、ズワイガニの2種が減少傾向、マコガレイ、ヤナギムシガレイ、ムシガレイなど9種が横ばいと判断しました。前回調査（H29年夏）と比べると、減少傾向魚種は2種と変わらないものの、増加魚種は9種から5種に減少しました。

表1 推定現存量の推移（夏季トロール調査）

（単位：トン）

魚種/年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	傾向
マコガレイ(本マコ)	18	30	28	5	5	16	29	26	19	横ばい
マガレイ(沖マコ)	23	44	37	7	11	23	20	16	15	横ばい
ヤナギムシガレイ	36	31	27	45	48	52	127	71	64	横ばい
ババガレイ(ナメタ)	48	38	91	77	71	54	96	79	70	横ばい
ムシガレイ	6	22	20	15	17	31	135	155	92	増加
アカガレイ	23	22	65	4	5	5	109	29	10	横ばい
ミギガレイ(ニクモチ)	50	77	83	197	107	65	161	111	105	横ばい
ヤナギダコ(水ダコ)	339	245	267	313	213	250	199	217	270	横ばい
アオメエソ(メヒカリ)	8	23	27	409	69	48	312	193	260	増加
マダラ	34	7	724	166	179	144	142	16	56	減少
キチジ	58	17	50	21	10	15	31	64	52	増加
ズワイガニ(本ズワイ)	141	149	59	40	73	58	105	111	9	減少
ベニズワイガニ	118	88	82	1	0	1	1	12	0	横ばい
トラザメ(ネコザメ)	3,053	1,426	604	1,616	777	1,119	960	1,603	1,231	増加
ユメカサゴ(ノドグロ)				22	29	26	32	111	189	増加
テナガダラ(トウジン)				977	1,388	6,559	1,126	907	1,113	横ばい
アカムツ				2	10	21	22	23	14	横ばい
エゾイソアイナメ				163	173	141	387	247	151	横ばい

### 2. 今回の注目魚種

今回の調査では、各地先の水深80～100mの水域でヤリイカの小型個体（胴長5～9cm、今年生まれ）が多く確認されました（図1）。これらは前漁期のヤリイカ漁の終漁期に漁場となった県中央～南部海域で産卵されたものがふ化・成長したものと思われ、今後成長して大きくなり、体重も増加します。現段階でサイズの小さいヤリイカはできるだけ取り控えて（小イカ狙い操業をしないなど）、成長を待つことが資源の有効利用につながると考えられます。

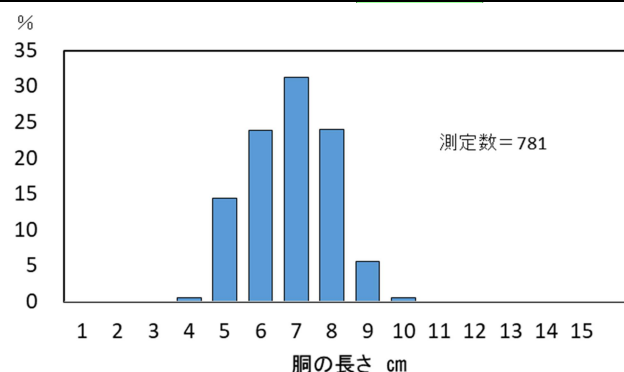


図1 採取されたヤリイカの大きさ

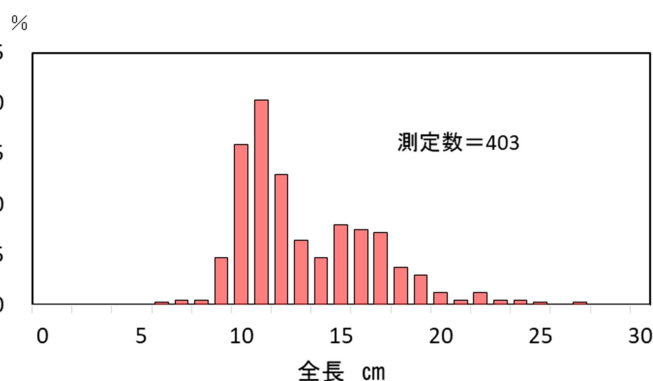


図2 採取されたユメカサゴ（ノドグロ）の大きさ

次に、ユメカサゴ（ノドグロ）の漁獲量は増えていますが、今回の調査でも10cm前後の小型魚（約20g、1～2歳）が各地先の水深150～200mの水域で採取され（図2）、現存量も増加傾向にあります。この小型魚は1年後には全長15cm（60g）以上に成長しますので、ヤリイカ同様、小型魚を取り控えることが（大量に入網する場所での操業を控えるなど）、資源の有効利用につながると考えられます。

【お問い合わせ】 定着性資源部  
TEL 029-262-4157

[次回予告] H30.10.9発行の「水産の窓」は、「10月の海況と今後の予測」を予定しています。